

消防水利を考えた河川整備は

維持管理について県に要望

問 26年の荒川地区の山火事では、ヘリコプターによる消火作業を石峠橋下流の川から取水し行った。その場所が台風10号により埋まった。今後、消防水利も考えた河川整備が必要と思うが町の考えは。

佐藤町長 河川は水量が少なく、取水が困難な状況であることから、消防水利としての適合水利には考えていないが、二級河川の維持管理について県に要望し、土砂撤去制度の導入を期待する。

問 自宅付近の防火水槽が解体された。昔の基準の20トンのためであると思うが、早急に今の基準で別の場所に造ることを望むがどうか。

町長 防火水槽は地権者からの要望により解体したものである。今年度、豊間根地区に40トンの防火水槽1基の整備を計画している。



尾形英明 議員
(新 生 会)



消防水利を考えた河川整備が必要である

町道の舗装復旧を早急に

交付金活用を検討し復旧する

問 昨年は、非常に寒く道路が凍上し、その上を工事車両などが走った影響でひび割れや沈下など道路が損傷している。凍上災や維持補修など事業を見つけ復旧を望むがどうか。

町長 ご指摘のとおり工事車両などの影響を受け、路面の沈下やひび割

れなど、傷んでいる箇所がある。舗装の損傷度合いを見て、交付金などの活用を検討しながら、舗装復旧に努める。

香木技監 今回の道路損傷は、凍上災の採択基準を満たさなかった。満たす場合には積極的に活用する。

ことば

〈凍上災〉

冬の低温によって道路の路盤などに大きな霜柱が発生し地面が隆起するなどの凍上現象により道路舗装にひび割れなどが発生する災害。

また、春の融解期に起こる路盤などの支持力低下により、道路舗装に沈下と亀甲状のひび割れが発生する。凍上災が発生すると、路面の平坦性が悪くなったり、ひび割れた舗装の一部がはがれるなど通行に支障を来す恐れがある。